保健・福祉・子育て支援施設（仮称）
令和３年度 第３回 基本構想等策定委員会　議事録

■開催概要

日　時：令和３年　９月 14 日（火）15：00～

場　所：荒尾市役所２階　市長公室

出席者：委員 11 名、事務局 13 名

	所属・役職	氏名
委員	熊本大学 熊本創生推進機構大学院担当准教授	田中　尚人
	荒尾市医師会 副会長	伊藤　隆康
	荒尾市社会福祉協議会	塚本　雅之
	荒尾市食生活改善推進員協議会 書記	大塚　恵子　（欠席）
	荒尾市健康づくり推進協議会	原田　裕美
	荒尾市民生委員児童委員協議会連合会 会長	甲斐田　忠
	荒尾市老人クラブ連合会 副会長	和田　トミ子
	荒尾市身体障害者福祉協会連合会 会長	斎　浩史
	荒尾市保育協議会 会長	伊藤　美佳子
	熊本県私立幼稚園連合会荒玉支部荒尾地区 理事長	開田　郁子
	荒尾市保育園保護者会連合会 会長	石崎　剛(欠席)
	荒尾市 PTA 連合会 会計	坪根　ゆり
	荒尾市地区協議会会長会 会長	河部　啓宣
事務局	荒尾市 保健福祉部	片山部長
	荒尾市 福祉課	浦浜課長
	荒尾市 子育て支援課	原口課長
	荒尾市 保険介護課	岩本課長
	荒尾市 すこやか未来課	田代課長、木下係長
	ウェルネス拠点タスクフォース	田川課長、奥村課長補佐
	パシフィックコンサルタンツ株式会社	山口、江本、片野
関係者	社会福祉協議会	近藤課長、平川課長補佐
	総合政策課	伊藤副主任、森副主任

■次第

１　開会

２　議題

(1)パブリックコメント結果【資料 1】

(2)基本計画(答申案)【資料 2】

(3)その他

３　閉会

■議事概要

委　員　長：基本構想等策定委員会の第三回ということで、答申案について話し合うということだが、保健・福祉・子育て支援施設について、施設を作ることが目的ではなく、昨今 SDGs といわれるものであるが、荒尾市の保健・福祉・子育てが持続可能となること、無理なく続けていける事が大事である。また、荒尾市の子どもが未来を生きる力を養い、市民全員がいつまでも健康でいるといった点がポイントである。今日は一旦まとめということで、ぜひ皆さんに忌憚のないご意見をいただきたい。引き続き、市民と対話して、かかわり合いができるような話し合いをできればと思う。

■議題１　パブリックコメント結果

資料１に基づき事務局より説明

委　員　長：13 番のフレイル状態とはどのようなことか。

事　務　局：健康と要介護の中間の状態で、今後対応すればどちらにでも推移するような状態を指す。どのような支援をするか、どちらにも移行ができる中間的な状態である。虚弱といわれることもある。

A　委　員：フレイル予防は人生 100 年時代に必要なものである。以前は生活習慣病が問題とされてきたが、現在は食欲低下、筋力低下からおきる体の機能低下をフレイルといい、問題視されている。現役世代の年齢を 75 歳に上げるためには。いかにフレイル状態としないかが重要である。そうすることで労働人口が増える。そのためにフレイルを予防しようということである。

委　員　長：日本社会の作り方で 100 歳まで生きるという中で、65 歳で引退ではなく、そこからの 10 年が大事で、そのような人にこの拠点を活かしてもらうということになるのではないか。要介護前に自分で何とかしようとか、熊本は元気な先輩方も多いので、そこを活かそうというのは良いと思う。

委　員　長：パブリックコメントの人数３人は少ないと感じたが、内容はとても良いものであると思う。

A　委　員：閲覧数は分かるのかどうか教えて欲しい。

事　務　局：閲覧方法は、市の HP に掲載し、公共施設にも冊子を置くようにしていたが、実際何人閲覧したかまでは把握していない。

委　員　長：無関心より、関心があるほうが良いと思う。パブコメの内容はしっかりしておりどれも大事なことである。このような話について常に市民に意見を聞く機会を開いておいて、相談や提案、文句など、関心を寄せていただくような仕組みの目安箱の設置があるとありがたい。

この施設整備に限らず、荒尾市全体の保健・福祉・子育てに関わると思うので、自分たちはフレイルにならないようにしようとか、そのような拠点でもあると思うので、ぜひ、実施してもらいたい。

■議題２　基本計画(答申案)について

資料２を基に、事務局より説明

委　員　長：基本計画についておさらいをしていくが、基本計画は基本構想に比べ具体性は増すものであり、細かな建物は実施設計の段階になるので、今はどのような機能が必要なのかという計画になると思う。機能面が重要なので２章と３章が重要である。第１章の背景や目的については、SDGS、熊本は熊本地震、荒尾市では昨年の豪雨災害からの復興という背景があり、拠点だけでできる訳ではないので、社協を始め公民館や社会教育、民生委員など、荒尾市全体ですることが重要であり、SDGS や防災が関係する。

ここでは、子育て・保健・福祉に特化して、ワンストップという言葉を使っているが、荒尾市全体で機能するものの司令塔としての役割を検討してきた。周りには、道の駅や運動施設もあるので、それら全体で荒尾市のウェルネスを実現していこうという内容である。特に大事なのが施設のコンセプトが掲載されたページからである。私は６ページの本庁舎と本施設の連携図が大切であると思う。市民の皆さんが自分はどこに行けばよいか、職員が自分がどのような動きをするのかを認識することが出来る。7 ページからアンケートのまとめがあり、14 ページから、本庁舎との役割について、ワンストップの意味について書いてある。21 ページ以降については、少し現段階の議論は早いかなという感じがする。21 ページの内容まではまだ決まらないと思うが、備考は参考例として出してもらっていると思う。このようなことが、別添の概要版に書いてある。ご質問は資料２か概要版から頂きたい。

B　委　員：基本構想策定では骨格の部分が出来たと思う。今日示された基本計画では、肉付けができている。パブコメの中で様々な視点から意見があったが、修正するべきところは修正して磨きがかかったと思う。将来に向けて長く、市民の方に頼られ親しんでもらう施設となるためには、中に入る機能と役割を担う人達が、どう連携していくかが大事であると思う。次のステップに期待したい。

委　員　長：社協は移られる予定だが、今の拠点は今後どうするのか。

B　委　員：指定管理施設として入っているので、その点に関しては市が回答する。

委　員　長：具体的には地域の皆さんのニーズなのか、それとも市全体で考えているのか。

事　務　局：学校跡地で社協が入っているが、すべての機能を新しい施設に移すわけではないので、空きの部分の活用法は未定だが、行政で使うのであれば災害時の施設や地域のコミュニティ施設として開放するか、もしくは民間に貸出しするかの３つの選択肢が考えられる。

B　委　員：先日のように大雨が降った時に、地元の川沿いの方が、高台にある総合福祉センターに車を避難させにくる。もともと学校であり、地域のランドマークとしての安心感があると地元の方から聞いていることなので、そういった役割を持ち続けるのであればありがたい。

委　員　長：荒尾市全体を考えた時に、北にある社協が西に移る印象があると思う。グリーンランド付近は図書館もでき、北側の方が不安に思うのではないか。荒尾市のバランスある発展についても、拠点計画にどこまで書き込めるかわからないが、AI/ICT も活用して、背景などに書き込んでもらえると良い。

C　委　員：内容的には、立派なものが出来ていると思う。総合司令塔的なことで地域として、対象地は位置づけられていた。現在は、大島町という町があり、それとの兼ね合いがどうなるのか地域の皆さんが心配されている。どこの地区に入っていくのか、それとも大島町の一角になるのか、質問が来ている。多目的な集会所もできると思うが、地域の公民館もあるので、兼ね合いがどうなるのか気になっている。立派なものができるのは良いが、地元との折り合いが大事なのではないかと考えている。そこを行政がどうするのか、どの行政区に入るのか、特別区なのか、学校区として万田小学校なのか、校区がどうなるか、心配をしている。そのような心配もあることを、頭に入れてほしい。

委　員　長：南新地地区には、施設ができるだけでなく集合住宅もできるので、校区はどうなるのか。また、JR 荒尾駅と南新地地区がどうつながるのかが大事であり、バスや移動手段は必要だと思うが、議論していれば教えてほしい。

事　務　局：校区については、現状ではまだ明確に決まっているわけではない。昔であれば万田小校区になる。計画人口として、約 1000 人の方に住んでいただく計画になっている。その中で子育て世代がどのくらい住むかという話だが、小中学校のお子さんをお持ちの方は、学校がどこかが心配になると思う。事前に、都市計画と総務課と調整をした上で、今の学校施設規模で足りるのか、１クラス 35 名、40 名となるが、教室が足りるか検討する必要がある。人口が減ってきて、毎年の出生数が 350 人程度である。ここ 1、2 年では 100 名くらい多かったが、子どもの数も各種データを踏まえながら、学校・学区を検討する必要があると考えている。

大正町や大島区の公民館、それぞれの地域の公民館との棲み分けとして、今ある公民館はどのような役割にするかどうかは要検討である。この施設の機能面はお示ししており、案として掲げているものである。この施設と地域で連携できる部分として、ソフト面の活動など、コンセプトの３つの柱をどう実現していくかは検討していく必要がある。

２点目のご質問であるが、JR 荒尾駅と南新地地区の繋がりについては、立地適正化計画における都市機能誘導区域にあたり、一体的な面として捉える必要がある。荒尾駅周辺についても、今年度都市再生整備計画を策定する予定であり、東口の問題やエレベーターがなく高齢者が階段を登れないなどの問題もあることから駅の改修についても考えている。その計画づくりを今年度から進めている。荒尾駅と南新地地区をつなぐ時、駅前の道路が玄関口となるので、アクセス道路も整備を検討する。スマートシティの中で、南新地地区と荒尾駅をつなぐ自動運転バスを運行するという計画もあるので、実証実験を含めて検討していきたい。一番近いところに戸建ての住宅があるが、荒尾駅から一番近いところで、500m 程度であり歩けない距離ではない。80m１分とすると、６分程度で歩ける距離になる。利便性は荒尾市の中でも高い方だと思う。

委　員　長：移住定住を考えた際に、子育て世代は必ず学校について考えることになると思う。そこは大事だと思う。人が増えて学校は追いつかないのでは本末転倒なので、力を入れていただきたい。高校は熊本市内や大牟田に行く可能性もあると思うので、その意味で駅と公共交通で結ぶことは大切。

また、歩くことは健康の為に大切である。以前歩いた際に、犬の散歩をする人は多いと感

じた。普通には歩かなくても、犬の散歩をするのであれば歩くという人も多いのではないか。歩きやすい道や歩きたくなる道は国交省も推進しているのでぜひやって頂きたい。

D　委　員：保護者のメンバーで見た時に、子育てという文字が出ている一方、小中高の PTA 連合会のメンバーとは関りが薄い気がしていたが、意見を聞いてもらい入れてもらったのはありがたい。以前学校のことはスクールソーシャルワーカーに相談すればという話があったが、成長の過程の体のことについて相談できる場所が欲しいという意見があった。自分も高校生の子がいるので、特にそう思う。学校で、相談しづらいところもあると思う。この施設に下の兄弟ことで訪れても、上の子の相談にも乗ってもらえる施設であればありがたいと思う。

「誰一人取り残さない…」という言葉がとても良いと感じている。自分は 20 代から荒尾に移住し、母が癌で亡くなった時に、子供を預けて看取るのが難しかった。苦労した部分があったが、子どもは何とか無事に高校生になってくれた。このような施設があることで 20・30 代が子育てしていくには、安心できる材料になるのではないか。意見を聞いていただいてありがたい。移住した時に荒尾市、玉名市、大牟田市で迷ったときがあった。小学校の校区も気になったが、特に重点を置いたのは、高校はどこに行くかである。住宅から駅までの交通機関を見越して、大牟田などの、小中高以降の、通える高校・大学の選択肢を考えている。交通機関が厳しく、今住んでいるところが、バスが少なく、タクシーもなく、利用しづらい。住宅から駅までの交通機関がしっかりしていると嬉しい。

それに加えて、学力だけの教育ではないが、中学生・高校生などが駅を使うこともあり、子どもが学習できる場があると嬉しいという意見もあった。図書館がシティモールにできるが、駅からシティモールに行くのは難しいところがある。サイクリングロードもあるが、自転車で安心して子どもを通わせることが難しい。希望として、図書館の分館のようなものがあると良いという声があった。パブリックコメント３人というのがさびしい。知り合いの何人かにも聞いてみたい。

委　員　長：子どものニーズは小中高だけではないし、勉強だけでなく、部活やボランティアを頑張りたいということもある。多様性を認めてあげられるような地域づくりや仕組みづくりが必要。居場所をつくる必要があるが、施設である必要はなく、病院や公園でも良いと思うので居場所づくりの声を聴くことが大切である。言われたことを反映してもらっているとは思うが、引き続き考えていく必要がある。

E　委　員：障がい者の立場では、バリアフリーについて考えてもらっていて、ありがたく思っている。社協もあるし、色々な面で、障害者が暮らしやすいようになっていると思う。

委　員　長：バリアフリーだけでなく、ユニバーサルデザインなどの“皆さんが使いやすい、誰もが”というのが大事なことである。

F　委　員：幼稚園関係では、毎年荒尾市の幼稚園・小学校・中学校・高校で夏に教育研修大会をしていた。施設ができると、集まった先生方が施設を見て、子どもたちに施設について教える環境が整うのでは。そのような勉強会が出来れば良いのではないかと思っている。

委　員　長：今はコロナでたくさんの人が集まることは難しいが、現場でというのは大事であり、分散の実施や、荒尾全体で学んでいけるというのは大事だと思う。

F　委　員：今後、子供や保護者が楽しめるような行事の年間計画をこの施設を通じて保護者への広報

活動が出来たら良いと思う。荒尾市のみんなが知って参加できる広報のやり方を考えて欲しい。

委　員　長： ICT が活かせるところでもあり、伝えたい情報と知りたい事をマッチングさせる必要があると思う。先生方が日頃知っている PTA 等の繋がりも活かして広報できると良い。

事　務　局：日頃幼稚園と保育園の先生方と市役所は、保健センターでのつながりはあるが、先生方に保健センターを見に行く機会がないと感じる。新しい施設ができたらそのような機会もあれば良いと話を聞いていて感じた。

G　委　員：保育園・幼稚園関係で集まっての研修も大事だが、現状できないので、ZOOM やオンデマンド、動画配信などで行うことも多い。荒尾市も取り組んでいると思うが、パソコン環境がない家もあるので、パソコンや ZOOM ができるような部屋も今からの時代必要ではないか。検診のことは以前から意見として出していたが、検診時に保育園関係者も１名参加するようにすれば良いと思っている。園児の様子と保健センターの専門の方が、集団での様子を見るというように、個別の検診ではなく実施することもできるのではないか。そのようなところも他の市町村ではあると思う。今後の課題として頭に入れておいて欲しい。基本計画を読むと、とても立派であると考えている。基本計画に基づいて素晴らしいコンセプトもあるので、これをしっかり生かすと荒尾は凄い所だと思えるようなものができると思うが、ここからがスタートであると思う。これを具体化することが、今からの課題だと思う。

子育て支援の立場から、保健機能・福祉機能・子育て機能でいいことが書いてあり、充実させてもらえると良いが、療育施設を１つ作って欲しい。今、療育施設が足りなくて行くことが出来ないことがとても多い。園でも 10 名おり、各施設に行っているが、療育施設が足りていない。相談ができ、療育施設にも行けると、全ての人が利用できるのではないか。

幼稚園から高校生まではできれば荒尾にいてくれるようになればいいと思う。大学は遠方でも良いと思うが、私の母の時代は、荒尾の人は荒尾高校しか行けない時があった。荒尾高校も多い時期あったが、問題があり現在は激減している。荒尾高校もきれいな施設ができているので、教育施設に力を入れてもらっても良いのかなと思っている。新しい地域に保育園や幼稚園が１つずつくらいあっても良いと思う。人口を増やそうと思うなら、そのような施設も必要ではないか。乳幼児をもつ親は、そのような施設があれば、そこに移り住もうということもあると思う。荒尾市の子育て支援センターが３箇所あるが、コロナの関係で９月末まで閉館しているため、赤ちゃんがいる保護者が困っていた。このような状況でもこの施設は開いていると小さい子供をもつお母さんの居場所になるので良いと思う。

委　員　長：療育施設の問題は早くから出ているが、施設と専門家どちらが必要なのか。

G　委　員：施設も専門の人もどちらも必要である。そもそも施設が少ないと思う。治療しながら療育をする場所が必要である。発達障害や自閉症スペクトラムの子どもが多くなっている。集団生活を受けながら、個別に療育プログラムを受けられるようなところが良いと思う。それだけをしても良くないので、集団生活も入れて、保護者と連携しながらやっていくようにする。まわりの理解も十分必要である。

委　員　長：荒尾市全体で考えたらどこかには必要であるが、必要な人の近くにあるのが大切である。引き続き検討してもらうと良い。拠点の計画だが、全体を見る必要があり、療育施設が必要ということは言ってもらっても良いと思う。コロナや災害があっても、子育てや教育はとめられないので、そういうケアを面的にする必要があり、そのヘッドクオーターがここということ。

G　委　員：荒尾市に臨床心理士がいるが、産休を取られている方がいるため一人になっている。臨床心理士は、幼稚園保育園をまわり発達の診断をしている。教育委員会の方で学校を回るが、臨床心理士の数が足りなくて大変ということなので、そういう人も施設と一緒に増やしてもらえるとありがたい。

委　員　長：それぞれの専門家がいる。大学も色々な人材を育てるようになっており、卒業生が荒尾市に関わることもあるのではないか。必要なニーズをあげることは重要。

H　委　員：高齢者は運転が不可能に近くなっているので、移送の問題をしっかりしてくれれば良い。

委　員　長：フレイル状態の話や、もう少しご年配の方も含めて、皆さんがニコニコして移動し、顔を見せて交流してもらうのは大事である。引き続き JR だけでなく、市役所にも来やすい方がいいので、是非検討してもらいたい。荒尾市として、年配の方の移動について頑張っていることはあるか。南新地が先進事例になると思うが。

事　務　局：移動について、荒尾市全域で AI のオンデマンドタクシーを導入している。バスや乗り合いタクシーも実施していたが、交通空白地があり、乗り合いタクシーもバスも来ない地域があった。そこで、昨年の 10 月から荒尾市全域で土日も運行するおもやいタクシーを導入しており、１日あたり 40 人程度、毎月右肩上がりで増えている。１ヶ月 1000 人以上の利用者になっている。自宅から乗って荒尾市内のどこにでも降りられる。通常タクシーの半額程度で利用できる。通常荒尾市内であれば、70 歳以上であれば 100 円でバスに乗れる。今 CO2 の問題もあるが、出来れば公共交通を使ってもらいたい。バスと連携した利用もでき、スマートフォン割引もある。2ｋｍまでであれば 300 円、小学生は半額となっている。どの距離行っても 700 円が上限。社協の協力をしてもらい、公民館でのいきいきサロンなどでも乗り方をご紹介している。皆さんもお知り合いにお知らせいただきたい。総合政策課が窓口なので、移動手段や登録の仕方が分からなければ、職員が対応する。

委　員　長：充実しているようなので、出来れば役所の方ではなく、それを高校生やスマホの使い方が上手い中学生の方が実施するなど、皆でやるのが良い。役所が考えて、広げるのは他の人もできるので協力体制が出来ると良い。

H　委　員：感心します。よくできている。よく土地があったなと思う。民生委員の会議でも皆さん興味があるようだった。計画が固まったらぜひ各団体に説明会などをしてほしい。それによりソフト面がどんどん吸収されると思うので、実施してもらいたい。１つ質問だが、2 階建て案と平屋案のメリット、デメリットあると思うが、今どちらを考えているか教えて欲しい。

事　務　局：参考資料の 4 ページについて、提示している図面はイメージである。これから、道の駅との複合施設として、PFI 手法ということで進める予定であり、10 月中旬には、要求水準書案という、色々な機能の仕様書的なものを作る。そこで、この基本計画に基づき、どのような部屋が、どのくらいの面積必要かなど条件を整理する。今回の１階建て案、２階建て

案は、PFI の事業者がイメージしやすいように作ったものである。これから基本設計、実施設計という展開になる。その中で、２階建て又は１階建てが良いのか、公募した事業者の提案から、機能性や人の動線などを踏まえ、ＰＦＩ事業等審査委員会で検討していく予定である。この仕様でということではなく、目安としてお示ししているという風にご理解いただきたい。ただ、この２パターンは考えられるということで、お示ししている。配置に事業者側からもっと良い提案もあるかもしれない。目安として示しているということである。

委　員　長：案が固まったら説明会は是非開催できると良い。そこで、変えられるところ、変えられないところがあると思う。方針は変えられないが、コロナ等あれば変えざるを得ない部分もあると思う。みなさんで良いものを作ることができると良い。

Ｉ　委　員：荒尾市の健康づくりでは、65 歳から 95 歳までの方が、フレイル状態にならないための筋力アップなどの活動をしている。活動の拠点がここにもできて、元気な高齢者ができて、その方たちが子育ての支援などに協力できたら良いなと思った。

委　員　長：やりがいや自分の健康だけでなく、その先に孫の世話をしようという風になる。食べることや健康になることなど、循環型で次の目標につながる拠点になれば良い。

A　委　員：ここの南新地地区は、日本最後の大規模計画といわれているが、荒尾市をどういう都市にするか全体像を示さなければならない。現時点である施設をどうするのかということもみんなが知りたがっていることである。図書館をシティモールに移した後どうなるのか。
2040 年が日本全体で亡くなる人がピークになる。フレイル予防も、20 年しか持たない。その間に、子育て、子供を増やさないと成り立たない。医療も医師の数が減り足りなくなる。福岡の有明地区も、熊本の有明地区も、急速に減る。医療が成り立たなくなる。その時に、荒尾市がスマートシティでこのような計画を立てられるのは大事であり、住民や子供が増える事を念頭に置かなければいけない。その中で学区をどうするかが大事である。学区が決まっていないということでは、建物が出来ただけでは人を呼ぶことはできないのではないか。住民が最も求めるのは、安心して子供を産んで教育、生活ができ、病院があって高齢者も生活出来る場所である。私たちは、2040 年までの患者の先々の病気、どのような医療機関が成り立つかを推計している。荒尾市は今年１年でお産の数が激減している。産婦人科がないと、子供を生んでも育てられない。学校が無いと教育できない。荒尾市がどうなるのか、今ある施設をどうしたいのか、この施設をどうしたいのか考えて、荒尾に人が住んでもらえるような計画をたてないといけない。今、人が増やせる可能性があり、このような大規模開発ができるのは荒尾だけである。荒尾に多くの人が来てもらえるような全体像を示さないと、計画倒れになりかねない。確実に人口は減り、子供も減る。荒尾だけが可能性がある。人が増えるような、子供を産めるような計画にする必要がある。学校はこのようにするので、荒尾に住んでくださいという計画にする必要がある。

委　員　長：最後の大規模開発なのはその通りだと思う。今は歩いて暮らせる町を作るほうが 20 年後に効いてくる。子供もお年寄りも安心して歩ける道や、教育施設は幼稚園や保育園、小学校、中学校、高校まで通えるようにすることが必要である。自宅から移動できる方がいい。
九州は兄弟が多い世帯が多いので、学び合いもあると思う。
施設の整備にはこういった意見を粘り強く集めることが大事。１人でも多くの人に関わっ

てもらうこと、語ってもらう、熊本弁で話す、仲間になることが大事。

委　員　長：基本計画答申案について異議ないでしょうか。

一同：(異議なし)

事　務　局：今後も施設の建設まで続くので、いただいたご意見を参考にさせてもらい、進めていきたい。修正が必要な場合には、委員長と調整し修正するということで良いか。答申は 9 月 30 日に予定しており、代表は田中委員長と、塚本副委員長にお願いしたい。

委　員　長：すごく勉強する機会があり、荒尾市の経験が他の仕事にも生きている。介護保険の勉強もさせてもらい、福祉の話もさせてもらい、SDGS、全てに関わる問題である。20 年後、どのような子供が育っているかが施設を作る意義である。通常の施設計画でこのような話をする事はないが、道の駅や PFI にも波及するので、学校の教育について白紙ということがないようにしてほしい。こんな満場一致で答申することもなかなかなく、市長にも自信を持って答申したい。必然的に荒尾全体でみなさんが笑顔になるような計画をやっていきたい。

事　務　局：いただいた答申案を市長に答申し、基本計画をまとめたい。昨年 10 月から、基本構想からご参加いただき、ありがとうございました。